

特集 地域のみんなで取り組む防災

災害から命と生活を守るために

自分の命は自分で守る「自助」、コミュニティで取り組む「共助」。多発する自然災害から命と生活を守るためにはどちらも不可欠です。「共助」の要となるのが、町内会や自治会単位で設立された自主防災会です。

地域に根ざす自主防災会

「自分たちの地域は自分たちで守る」ために結成された自主防災会。防災知識の普及や防災訓練、避難行動要支援者への対策など、誰もが防災を身近に感じることができるよう地域ごとにさまざまな防災活動に取り組んでいます。

自主防災会について詳しくは市ホームページで。

市HP ページ番号 17835



今年で発生から10年がたつ、平成26年8月20日の豪雨災害を契機に設立された市危機管理室では、災害の教訓を踏まえ、自主防災会による訓練を支援するなどの「公助」に取り組んでいます。

地域の訓練に参加することで、災害時にどう行動すれば良いか分かり、落ち着いて対応できます。ぜひ、地域の訓練にご参加ください。



災害予防課 渡辺利子主事

防災訓練

毎年の訓練に新たな試みを

安佐南区では、マンションの管理組合と自主防災会共催の防災訓練が行われました。

新たな試みである給水訓練では、被災によりエレベーターや水が止まったときを想定し、参加者は5*もの水を階段で運ぶ体験をしました。

大学生も地域の一員

初の取り組みとして、協力を依頼したのが地元の広島修道大学の地域共創サークルです。

手伝った学生は、「地域の防災訓練に参加することで、自分自身の防災意識も高まりました。地域の一員として災害時には自分も協力したいです」と話します。



非常持ち出し袋に入れるものを考える「防災塗り絵」は防災士が用意したもの。「避難するときは何を持って行けばいいかな」と子どもたちも楽しみながら防災を身近に感じていました



市水道局の給水車から給水袋に水を入れて運ぶという給水訓練では、災害時のために体力をつけないと、という声も



カラフルなセロハンで飾ったペットボトルランタン

防災運動会

晴天の下、体を動かしながら

自主防災会とエルモ大芝(ひろしまLMO※)、福祉に携わる地元企業の交流を目的として、西区で開催されたのは、防災運動会。

社員の防災意識向上や地域とのつながりを強めたいという企業と、地域全体の防災意識を高めたという自主防災会の思いが一致しての実現です。

約200人が参加し、災害借り物競争などの種目を行いました。

※ひろしまLMOとは地域内の各種団体が連携して、さまざまな地域課題の解決に取り組む組織です



救援物資ジェスチャーゲームや防災クイズラリーなどの種目も行われました



災害借り物競争では、災害時の応急処置など身近にあるもので対応する方法を考えます

争などの種目を行い、楽しく防災を学びました。

地元の企業として地域と連携

参加した企業の従業員は「地域と連携することで大規模な防災イベントが開催できて良かった。地域とのつながりを大切にすることが企業防災活動において重要だと感じた。このような取り組みが他の地域でも進んでほしい」と話していました。

みんなが楽しんで防災を学べるように、工夫を凝らした、自主防災会の取り組みを紹介します。あなたも今から防災について考えてみませんか。

☎災害予防課(☎504-2664、☎504-2802)



参加する

あなたも地域の取り組みにご参加を

防災キャンプ

避難所に泊まる

安芸区の小学校では、災害時に避難所となる学校に宿泊する防災キャンプが行われました。自主防災会とPTAが連携した取り組みです。

防災も思い出づくりも

参加者は防災士の話を聞いた後、ペットボトルでランタンを作ったり、牛乳パックと空き缶でご飯を炊いたり、電気やガスのない災害時を想定した状況でのキャンプを楽しみました。自分で炊いたご飯は、おいしさもひとしお。カレーをかけていただきました。

夜にはみんなが楽しみにしていたナイトオリエンテーリング。ゲームをしたり夜の学校を探検したりと、すてきな思い出ができました。

参加した子どもたちには防災バッグが配られ、「いざという時には、これを持って家族と避難したい」と話し合っていました。



空き缶に穴をあけて炊飯する台を作ります



やけどに気をつけて炊飯



おいしく炊けて笑顔の子どもたち



夜の体育館。ワクワク気分も高まります

防災カフェ

防災をもっと気軽に

「気軽に防災を知ってほしい」との思いから、地域の防災士・門脇明子さん(53・右写真)の呼びかけで中区のマンション共用部分に30人が集まりました。「防災カフェ」という新しい取り組みです。

誰でも、途中からでも参加できます。民生委員やマンションの近隣住民も参加し、椅子が足りなくなるほどの大盛況。飲み物やお菓子を手に、防災士や市職員から家の備えについて学びました。



住環境によって 気を付けるべき防災は違う

テーマは「地震とマンション」。高層階の揺れ方の特徴や、エレベーターからの避難方法、水やトイレの備蓄などマンションならではの地震時の注意点を、参加者は真剣な表情で聞いていました。焼き米などの非常食の試食では、「初めて食べたけどおいしい」などの声も。

参加者は「気になっていた内容で良かった」「今日の話を知りたかった」と話していました。

見守る 地域で支援する

避難支援

顔の見える関係づくり

災害時に自力で避難することが難しい避難行動要支援者を、地域で見守ります。温品学区(東区)の自主防災会では、町内会長や民生委員などが集まり関係者会議を開いたり、関係者で要支援者宅を訪問したりして、地域と要支援者の、顔の見える関係をつくりながら「わたしのひなんシート(個別避難計画)」(右記)の作成に取り組みます。



町内会長など地域の数人で1人暮らしの高齢者宅などを訪問します

顔の見える関係をつくることで、地域全体での避難支援の機運が高まります。要支援者から「気にかけてくれてありがとう」との言葉をもらおうと嬉しいです。



温品学区自主防災連合会 会長・木村隆明さん(79)

8/30(金)までにご返送を

「ひなん支援の調査」にご協力ください

災害時に自力で避難することが難しい避難行動要支援者が、地域の支援を受けて避難できるよう、支援に必要となる情報や避難先などを確認します。☎危機管理課(☎504-2653、☎504-2802)、健康福祉企画課(☎504-2144、☎504-2169)

避難支援などに役立てます

対象者に、8月上旬に調査票などを発送しています。

この調査は、右の二つを目的としています。

【対象者】今年4月1日時点で次のいずれかの要件に該当する人

- 要介護3以上の人
- 身体障害者手帳1・2級、肢体不自由3級の交付を受けている人
- 療育手帳AかAの交付を受けている人
- 精神障害者保健福祉手帳1級の交付を受けている人
- 居宅介護、短期入所、補装具費の支給が日常生活用具の給付サービスを受けている難病患者
- 上記の要件に準ずる状況で自力での避難が困難であると市長が認める人

調査票が届いたら

送られてきた調査票に情報提供への同意の有無、避難方法などを書ける範囲で記入し、返送してください

右上☑に同意した人の情報は、自主防災組織や町内会などの関係団体に提供し、地域の避難支援の取り組み(下記)に使用します

1 避難支援に必要な情報を自主防災会や町内会などの関係団体へ提供して良いかの確認

同意した人の情報は、関係団体に提供し、災害時の避難支援や安否確認などに使用します。

2 「わたしのひなんシート」の作成

避難先や避難先までの移動方法などを検討して書いてみましょう。分からない箇所は空欄のままでも構いません。「わたしのひなんシート」の作成については、災害危険区域に居住している人など優先度の高い人から順番に、地域で避難支援に関わる人や市職員がお手伝いします。

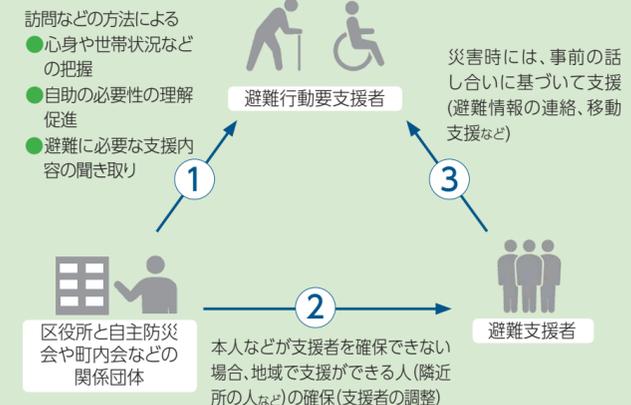
「わたしのひなんシート」とは、災害の恐れがある場合に、「誰と」「どこに」「どうやって」避難するかなど一人一人の避難を考えるための計画です。

調査について不明な点は、コールセンターへ

市避難支援・対策コールセンター ☎0120-944-487、12月27日までの平日8:30~17:15

詳しくは市ホームページで。市HP ページ番号 346960

避難支援の取り組みの一例



- 避難支援の取り組みは「共助」によるものです。法的な義務や責任を負うものではありません
- 避難支援は、支援者本人とその家族の安全を確保した上で、可能な範囲で行うものです

避難支援の原則